

## 令和元年度社会教育・公民館等職員研修会Ⅱ兼コミュニティづくり研修会1実施計画

### 1 ねらい

社会教育・公民館等職員の仕事と役割についての講話及び職員の実践の様子や課題解決へ向けての取組紹介により、自身の課題の再認識とその解決方法を考える。

2 主催 宮城県教育委員会，宮城県公民館連絡協議会

3 共催 名取市教育委員会

4 日時 令和元年8月28日（水）午前10時～午後4時

5 会場 名取市増田公民館（名取市増田 4-7-30）

※当日の駐車については、施設利用者優先のため、別紙「名取市市役所駐車場」を御利用、御協力ください。

### 6 対象

市町村等教育委員会職員，公民館等社会教育関連施設職員，市町村社会教育委員

### 7 内容

時程	次第	内 容
9:30 9:55	受付	
9:55 10:00	開会行事	○ 諸連絡等
10:00 11:40	講話	○ 講話「(仮) 住民ひとりひとりの人生の質を高めて ～持続可能な住民の学びを支援する施設とは～」 講師：社会教育・生涯学習研究所長 細山 俊男 氏
11:40 13:00	昼食・休憩	
13:00 14:30	事例紹介	○ テーマ「認知症当事者からいまに学ぶ ～個人課題から地域課題に向き合う～」 登壇者： 認知症当事者2名 (公社) 認知症の人と家族の会代表 若生 栄子 氏 特別養護老人ホーム施設長 佐々木 恵子 氏 認知症サポートの会「おれんじドア」 今田 愛子 氏
14:30 14:45	休憩	
14:45 15:45	ワークショップ シンポジウム	○ テーマ 「同じ悩みを持つ者がつながり合い 共有された課題を 共同の力で解くためにできることとは」 コーディネーター：東北大学大学院教育学研究科 准教授 石井山 竜平 氏
16:00	閉会行事	○ 諸連絡

【研修会趣旨】

# 同じ悩みを持つ者がつながり合い 共有された課題を 共同の力で解くためにできることとは

人は、生きる過程で多彩な「悩み」を抱えます。悩みのもとには、個人の問題、家族の問題、職場の問題など、様々です。その中には、自分や家族の力だけでは解決できない深い苦悩となっているものも少なくありません。でありながら、こうした課題は往々にして、人に頼るべきではない、とみなされ、個人や家庭の中に閉じ込められがちです。

しかし、ある一人が直面している課題は、その人限定の悩みであることは先ずなく、近い問題で悩んでいる他者が、同じ時代、同じ社会には存在しています。

社会教育が目指すべきは、個人の問題にされがちな課題が、人と共有できる課題であることに気づきあい、同じ悩みを持つものがつながり合い、共有された課題を、共同の力で解こうとする、そうした「共同学習」の道筋づくりです。

そのことを深めるために、本研修では以下の内容で構成します。

午前は、細山俊男さん（社会教育・生涯学習研究所所長）からの講義です。細山さんはかつて、埼玉県の所沢市で、社会教育職員を30年以上ご経験されました。その過程では、公民館のなかに、中途障害者が集える環境を、保健士など他の公務労働専門職と繋がりながら実現されるなど、社会教育への参加の裾野を広げる取り組みを重ねてこられました。そうした、深い困難や悩みを抱えた方々に公民館ができることについて、細山さんの経験知をもとに学び合います。

午後は、地元宮城の今日で広がる、認知症の当事者運動に学びます。実は宮城県では、当事者の勇気・行動力と、支援者の思いが重なり合って、全国的に見ても突き抜けた、認知症当事者運動が展開されています。当日は、認知症当事者の方からも「認知症を発症して生きるということがどういうことなのか」を発信していただき、さらに、認知症の方々が集う場が今日どのように作られているのかに学びながら、社会教育としてこの問題にできることとは何かを考え合います。